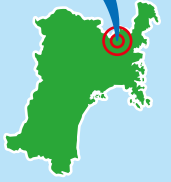


農の広場

登米市農業委員会だより

第43号
令和6年10月



迫町佐沼の新規就農者
あ だちそうま
安達蒼真さん



今春、宮城県農業大学校「園芸部花き専攻」を卒業し、親元就農した迫町佐沼の安達蒼真さん。祖父の嘉壽治さんが花き栽培のために建設した鉄骨ハウスを父の建治さんが引継ぎ、40aの面積で花きを栽培しています。夏はスプレーギク、冬はストックのローテーションを組んでいるそうです。

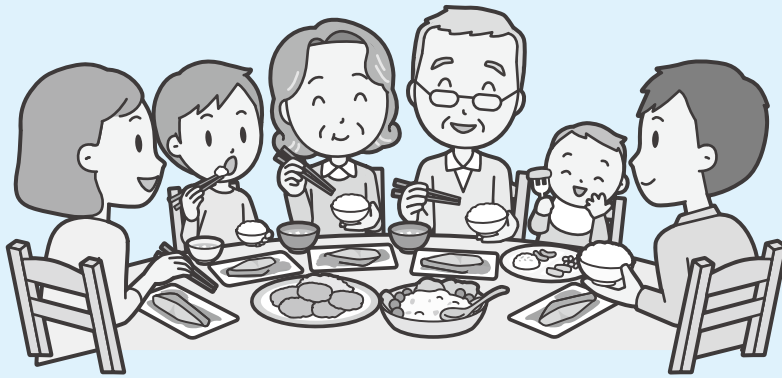
気を付けていることを伺うと「天候によって開花時期がずれないように、播種・定植時期に気を配っています」とのこと。近年の猛暑が経営に影響を及ぼさないように考える姿は、とても頼もしく感じました。

大学校在学中は優秀な成績を評価され、宮城県知事から表彰された蒼真さん。大学校で習得した栽培技術を経営に活かし、面積の拡大を図りながら人と環境にやさしい農業を目指したいと話してくれました。

担当：浅野 和宏委員



地域計画策定へ進む話し合い



地域農業の未来を考える地域計画の協議の場における話し合いが、昨年11月より市内9町域でそれぞれ3回開催されました。

6月から7月にかけて開催された3回目の協議の場では、地域の農業委員や農地利用最適化推進委員が進行役となり意見の取りまとめを行いました。

地域ごとに、農業に対する問題点は様々ですが、農地の所有者、地域の担い手などが、解決策について互いに意見を出し合い、どの地域も未来の農業の在り方を一体となって考えていました。

これからも地域のご意見をいただきながら、持続可能な登米市の農業発展に務めてまいりたいと思います。

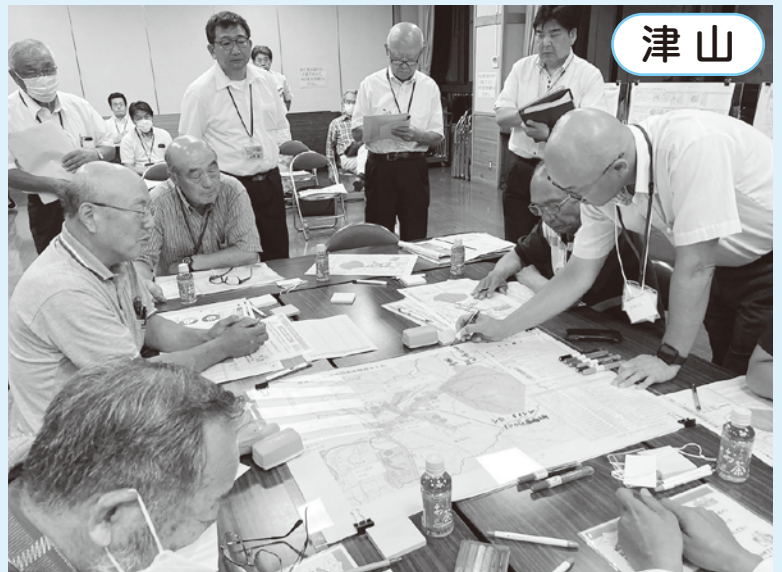
担当：門馬 一郎委員

各町域 協議の場の様子

石越



津山



登米



米山



中田



東和



豊里



南方



これまでの協議の場の取りまとめ状況は登米市ホームページで公表しています。

迫



農業委員を募集 (欠員による補充)

市では農業委員を募集しています。

【役割】 農地の売買・貸借などによる権利移動の決定、農地転用許可のための審議や会議出席など。

【対象者】 農業の識見を持ち、農業委員会の所掌する事項などについて、適切に職務を遂行できる人。

【定数】 1人

【任期】 任命の日から令和8年7月23日まで。

【推薦・応募方法】 推薦（団体または農業者等3人以上の連名による推薦）または自ら応募。

規定様式に必要書類を添えて応募してください。

【募集期間】 9月24日(火)~10月23日(水)

【報酬】 月額4万6千円

【問い合わせ・応募先等】 農業委員会事務局（農政総務係） ☎0220-34-2317

詳細は市農業委員会ホームページをご覧ください。

農業者年金に加入して 安心して豊かな老後を!

農業者年金は下記の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。内容など詳しくは、農業委員会またはJAまでお問い合わせください。

要件

- ①年間60日以上農業に従事
- ②国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）
- ③65歳未満（60歳以上は国年任意加入者）

あなたの老後生活への備えは十分ですか？
老後の備えは国民年金プラス農業者年金できまり！

※農業者年金に加入される方は国民年金の付加年金（保険料400円）への加入が必要です。

※国民年金基金および個人型確定拠出年金（イデコ）とは重複加入できません。

※途中で脱退しても、将来年金として支給されます。脱退一時金はありません。

丸ごと農家体験ファームステイ

皆さんはファームステイをご存じですか？

県内外の中高生が登米市内の農家に宿泊して、丸ごと農家体験ができる取り組みで、毎年10校ほど受け入れしています。今年は、アメリカ、韓国の大学生も受け入れしました。

登米市グリーン・ツーリズム推進協議会会長岩淵芳子さん(東和町)は、受け入れ農家33名の代表として活躍しています。

「子供たちは商品としてスーパーに並ぶ前の野菜や肉の生産段階の大変さを実感し、一面の緑と満点の星空に大感激して、また来たいと言って帰るよ!」と思い出の写真を見ながら岩淵会長が話してくれました。

都会に住む子どもや孫を迎えるようなドキドキ感を味わい、かつ登米市の若い応援団となってくれる人を増やしてみませんか？

受け入れ先となる新規会員を募集中です。

詳しくは登米市産業経済部観光物産戦略課(0220-34-2759)まで。

担当：三塚 芳毅委員



写真を手にする岩淵芳子さん

農地利用状況調査研修会

農地利用状況調査研修会は7月12日、中田農村環境改善センターで開催され、農地利用状況調査員として農業委員会から委嘱された調査員と、農地利用最適化推進委員、農業委員が参加しました。

研修会は、7月13日から2ヶ月間実施された農地利用状況調査に先立ち開催されたもので、調査時の注意点や、調査と同時に行った農地パトロールについて事務局職員から説明を受けました。

調査結果に基づき、所有者の方には利用意向調査を行うこととなりますのでご協力をお願いします。

担当：五十嵐 幸喜委員



代表して委嘱状を受け取る東和町の小野寺仲光さん



研修を受ける調査員さんたち

農地の転用や売買、貸借などの申請は毎月10日が締切です。10日が土曜、日曜、祝日の場合は翌平日になります。

購読しませんか？全国農業新聞
金曜日発行で月額700円
農業委員会のネットワークが発行する週刊の農業専門誌です。
申し込みは農業委員会まで！

編集委員

委員長 三塚 芳毅
副委員長 浅野 十嵐

五野 幸喜
浅野 十嵐
三塚 芳毅
佐藤 久順
小野寺 健一
高橋 健一
鹿野 昭郎
門馬 昭郎

担当：佐藤 久順委員

冷害をもたらし「やませ」は毎年みられる現象とのことであるが、2010年以降冷害は発生していない。むしろ、近年は海面水温の上昇にともなう「猛暑」の頻度が高く、米の登熟不良や、白米熟粒等の高温障害への懸念が高まっていることから、高温に強い品種の開発が急がれる。また、今年も例年以上に熱中症に対する意識と対策が不可欠だ。暑一と「やませ」いずれも程々が良いのは私だけだろうか。農委に託された目標地を一方、農業委員会に託された目標地を本格的に作成は、担い手農家の協議を成果の目安とし、より実効性の高い対食料の安定供給を確保する必要がある。対する事前の対策が不可欠だ。

編集後記